

# 『意味論の考古学』

～語彙変化についての一考～

言語は堆積物のようだ  
時間をかけ、意味合いの層が分解していく

いくつかの言葉は化石化し、話しを儀式化する  
ほかの言葉は、語彙のガレキに覆われる

別の言葉は言語の層と溶け合い、  
文脈的に新たな言葉へと置き換えられる

何千年もの時空を超えて、言葉はふたたび  
ゆがみ、ねじれ、ついに我々の理解を超える

初期の音に忠実ないくつかの言葉は  
新しい概念を持つ言葉になる

遠い文化の借りものの言葉は、  
私たちの思考を変化させ、理論的枠組みを左右する

今日、我々が知る言葉のいくつか  
年月を経て残るのでしょうか？

そして、コンピュータと人間がますます近づいていくと、  
言葉はどのように変わるのでしょうか？

ティン：今日のほとんどの英語読者は、わずか400年前に書いたチャオサーをほとんど理解する事ができません。

玲亜：確かに、この先、あと400年で言語がどう変わるか想像できますか？

- T Newfields (和訳: テレサと吉田典子)

開始: 2011年 静岡市 ★ 完成: 2019年 横浜市

